

ちゅうべつ きたさいと
⑱ 忠別川河川空間整備事業（北彩都あさひかわ）

受賞機関 国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部
 旭川市

＜評価＞

まちづくり事業の「北彩都あさひかわ」整備事業と連携して、水質も良好で急流河川特有の変化に富んだ自然豊かな様相を呈する忠別川の自然環境を極力維持しながら行った河川空間整備事業。区画整理、鉄道高架、関連街路や河川空間整備などが連携・調整して都市空間の景観形成を図ったという、従来にはないタイプの景観づくりが評価された。

はじめに

北海道第2の都市旭川市の玄関口である旭川駅南側を流下する石狩川水系忠別川では、旭川市始まって以来の大規模事業である「北彩都あさひかわ」整備事業と連携し、平成10年度から忠別川河川空間整備事業を進めた。事業は旭川市・北海道開発局が一体となり、新旭川駅舎を顔とする川と緑豊かな都市の融合を目指すランドデザインにより進められた。北海道開発局は、堤防強化や河岸浸食対策等を実施し、旭川市が「北彩都ガーデン」の整備を実施し、平成27年7月31日にランドオープンを迎えた。

事業の概要・成果

忠別川の河川空間整備については、急流河川特有の変化に富んだ自然豊かな環境を活かし、堤防の緩傾斜化や植栽、遊歩道などにより「川のうねり」を表現、親水性護岸は、階段状に整備することにより洪水頻度に応じた植生の違いを表現した。さらに忠別川の霞堤を活用した静水面（大池）を創出することにより街と川が一体化、連続したロケーション（まちなかのオアシス）の創出が図られた。

これらのデザインや整備は、関係する区画整理、鉄道高



忠別川河川空間整備事業（旭川駅と大池）

架、街路などの多くの事業者と連携、調整を図りながら進めた。このことにより、新しい北国の都心形成にふさわしい川と都市が融合した景観づくりがなされ、賑わいの低下が見られた中心市街地において、大規模商業施設やホテルなどが進出し多くの市民や観光客による賑わいが創出されている。

おわりに

今後は、このすばらしい都市と川が融合した空間において、民間活力との連携などによるさらなる旭川中心市街地の活性化が図られることを期待する。

賛助会員 (株)NIPPO道北統括事業所、
 (株)復建エンジニアリング札幌事務所

はちまんたいさんけい くようぶつ
⑲ 八幡平山系供養佛地区災害復旧工事

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 湯沢河川国道事務所

＜評価＞

平成25年8月の土石流により、甚大な被害が発生した仙北市田沢湖田沢供養佛地区の災害復旧事業。本格的な梅雨の前に1年を経ずして完成させた。東日本大震災後の公共工事増大により建設機械等の調達困難ななか、バックホウによるコンクリート打設や金属パネル軽量残存型枠使用等の創意工夫により工期を短縮させた点が評価された。

はじめに

平成25年8月9日、秋田県北部では各地で観測史上最大を記録する猛烈な降雨となった。

仙北市田沢湖田沢供養佛地区では斜面崩壊による土石流が発生し、死者6名、重軽傷者2名、家屋被害17棟におよぶ甚大な被害となった。湯沢河川国道事務所では、緊急にレーザ測量や現地調査を実施したところ、崩壊斜面上に約1万㎡の不安定土砂が残存することを把握したため、砂防災害関連緊急事業（直轄）により再度災害防止を目的とした砂防堰堤の新設工事を実施した。

事業の概要・成果

地域の安全・安心確保のため、早期完成を目指し事業期間短縮に最大限努力した。

砂防堰堤本体工事のコンクリート打設は、東日本大震災後の公共工事量の増大によりクレーン等建設機械等の調達が困難ななか、バックホウによる打設を採用した。標準施工ではないため、課題となりうるコンクリートの品質については、受け拵投入後の品質確認や供試体数の増加、抜き取りコアの強度試験を実施するなど品質が確保されている



供養佛沢砂防堰堤

かの確認を行っている。その結果、クレーンによる標準施工と比較して約2倍の速さで打設可能となり、大幅に工期を短縮できた。

また、残存型枠には東北地方の直轄砂防工事で初めて金属パネルを採用した。軽量で人力運搬可能かつ現場での加工が容易なことから作業効率が向上し、コンクリートの打設等の工程に支障をおよぼさずことなく施工を進めることができた。

結果として、翌年、本格的な梅雨前の6月中に砂防堰堤本体を完成させたものである。

おわりに

工事の創意工夫と全ての関係者の努力により、通常2～3年の施工期間を要する砂防堰堤の本体工事を1年以内という極めて短期間で完成、地域の安定に寄与することができた。

賛助会員 (株)建設技術研究所東北支社、万六建設(株)